

特許協力条約

REC'D 16 JUN 2005

PCT

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

| | | |
|---|--------------------------------------|---------------------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 H3-A0301P | 今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。 | |
| 国際出願番号 PCT/JP2004/011307 | 国際出願日 (日.月.年) 30.07.2004 | 優先日 (日.月.年) 31.07.2003 |
| 国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C12N15/00, A01H1/00, 5/00, C12N5/04 | | |
| 出願人 (氏名又は名称) 本田技研工業株式会社 | | |

1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。

3. この報告には次の附属物件も添付されている。

a. 附属書類は全部で ページである。

指定されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)

第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙

b. 電子媒体は全部で ディスク 1 枚 (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するデータを含む。 (実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
 第 II 欄 優先権
 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 第 IV 欄 発明の單一性の欠如
 第 V 欄 PCT35 条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第 VI 欄 ある種の引用文献
 第 VII 欄 国際出願の不備
 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

| | |
|---|--|
| 国際予備審査の請求書を受理した日 24.01.2005 | 国際予備審査報告を作成した日 06.06.2005 |
| 名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号 | 特許庁審査官 (権限のある職員) 左海 匠子 電話番号 03-3581-1101 内線 3488 |
| | 4N 3038 |

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

PCT規則12.4にいう国際公開

PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。）

出願時の国際出願書類

明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ 項*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ ページ/図*、_____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 指定により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること） _____
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること） _____
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | |
|-----------------|-------------------------------|---|
| 新規性 (N) | 請求の範囲 <u>2-3, 7-11, 13-22</u> | 有 |
| | 請求の範囲 <u>1, 4-6, 12</u> | 無 |
| 進歩性 (I S) | 請求の範囲 <u>16-22</u> | 有 |
| | 請求の範囲 <u>1-15</u> | 無 |
| 産業上の利用可能性 (I A) | 請求の範囲 <u>1-22</u> | 有 |
| | 請求の範囲 <u> </u> | 無 |

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1

Terada, Y. et al., Cloning and nucleotide sequence of a leaf ferredoxin-nitrite reductase cDNA of rice.
Biosci. Biotechnol. Biochem. (1995) Vol. 59, p. 2183-2185

請求の範囲1, 4~6, 12に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1により、新規性及び進歩性を有しない。

文献1には、本願の配列番号3で示されるアミノ酸配列と2アミノ酸だけ異なるアミノ酸配列からなる、イネ由来のフェレドキシン亜硝酸還元酵素及び該酵素をコードする遺伝子、該遺伝子をベクターに連結して宿主細胞に形質転換することが記載されている。

文献1に記載された発明のアミノ酸配列は、本願発明の「配列番号3に記載のアミノ酸配列において1または複数のアミノ酸が置換、欠失、付加、および/または挿入されたアミノ酸配列からなるタンパク質」に相当するから、請求の範囲1, 4~6, 12に係る発明は、文献1に記載された発明と区別がつくものではない。

請求の範囲2~3, 7~11, 13~15に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1により進歩性を有しない。

ある特定の機能を有するタンパク質をコードする遺伝子がクローニングされている場合に、該遺伝子を、植物を含む適当な宿主に形質転換して該タンパク質を製造すること、該タンパク質の部分ペプチドを製造すること、該タンパク質に対する抗体を取得することは本出願優先日当時広く行われていたことであるから、引用文献1に記載された発明の遺伝子について上記周知手段を適用することは、当業者が容易に想到し得ることである。また、そのことによる予想し得ない格別顕著な効果も認められない。

配列表に関する補充欄

第I欄2. の続き

1. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に必要なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき国際予備報告を作成した。

a. タイプ 配列表
 配列表に関するテーブル

b. フォーマット 書面
 コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる
 この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
 出願後に、調査又は予備審査のために、この国際機関に提出された
 _____ 付けて、この国際予備審査機関が補正*として受理した

2. さらに、配列表又は配列表に関するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

3. 補足意見：

*第I欄4. に該当する場合、差替える配列表又は配列表に関するテーブルに "superseded" と記入されることがある。

補充欄

いざれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 16～23 に係る発明は、国際調査報告で引用されたいざれの文献にも記載されておらず、進歩性を有する。

特に、配列番号 3 に記載されたアミノ酸配列からなるカサラス種のフェレドキシン亜硝酸還元酵素及び該酵素をコードする遺伝子、該フェレドキシン亜硝酸還元酵素がコシヒカリのフェレドキシン亜硝酸還元酵素よりも高い活性を有すること、及び、イネの再分化能を向上させる機能を有することは、いざれの文献にも記載も示唆も認められず、本願の配列番号 3 からなるアミノ酸配列を有するタンパク質を、植物の再分化用薬剤に用いることや、フェレドキシン硝酸還元酵素をコードする遺伝子を用いて植物の再分化を促進させることは、当業者といえども容易に想到し得ることではない。